

産学連携で加速する 研究シーズの事業化

バイオ・ヘルスケア・医療・ライフサイエンス等分野における、

研究シーズの事業化・社会実装に向け、

大学等研究者と企業の産学連携促進へと繋げる
交流会イベントを開催。

産学連携に係る講演や企業・研究者の
シーズ／産学連携ニーズ発表のほか、

研究予算獲得に向けたセミナーも実施します。

2024
11.29(金)
14:00～16:45
受付 13:30～

札幌ガーデンパレス 2階 丹頂の間
札幌市中央区北1条西6丁目

対象: 研究シーズの事業化・社会実装を目指す大学等研究者、
産学連携を展望する企業、大学等の産学連携部門、
スタートアップ・エコシステム支援者 など

主催: ノーステック財団、札幌市

後援: 一般社団法人北海道バイオ工業会

協力: STARTUP HOKKAIDO、
札幌市イノベーション推進コンソーシアム、
SAPPORO BI LAB

NOASTEC SAPP_RO

PROGRAM

イベントプログラム

14:00～14:05 開会

14:05～14:35 基調講演



「成果に繋がる産学連携プロジェクトの創出に向けて」

株式会社キャンパスクリエイト
技術移転部
産学官連携コーディネータ
近藤 百合氏

14:35～14:50 セミナー



「研究予算申請書作成の勘所～AMEDなどのプロジェクト申請書の構成～」

公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター(ノーステック財団)
事業戦略統括部
チーフコーディネータ
扇谷 悟氏

15:00～15:15

企業の産学連携ニーズ



「機能性抗GPCR抗体を創出する独自技術による新規バイオ医薬品の開発」

株式会社エヌピー健康研究所
代表取締役
高山 喜好氏

15:15～16:00

研究者のシーズ／産学連携ニーズ発表

16:00～16:45 交流会

PROFILE

株式会社キャンバスクリエイト 近藤百合氏

2021年より株式会社キャンバスクリエイト入社。事業化見込みの高い大学研究シーズ探索や、企業の新規事業創出、技術課題解決に向けた研究シーズ調査や、産学連携共同研究の企画提案、連携後のプロジェクトマネジメントに従事。企業と研究者、関係者とのきめ細かなコミュニケーションを通して、事業成果に繋がる連携創出に寄与すべく、日々邁進している。

公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター(ノーステック財団) 扇谷悟氏

ノーステック財団で産学連携・地域連携を推進するチャレンジフィールド北海道のチーフコーディネータに従事。産業技術総合研究所北海道センター所長を経て現職。2017年AMED出向。これまでにAMED医療機器開発予算のヒアリング審査の他、経産省、NEDO、中小企業庁などの書面審査を担当。

株式会社エヌピー健康研究所 高山喜好氏

大正製薬株式会社で12年以上様々な創薬プログラムに携わる。その後、ハーバード大学医学部付属病院循環器内科で基礎研究に従事しながら、ボストン界隈の創薬エコシステムについて見聞を広める。大正製薬を退職後、当社を設立。代表取締役を務める。東京大学大学院修了(薬学博士)。札幌南高等学校卒業、札幌市生まれ。

企業の産学連携ニーズ

「機能性抗GPCR抗体を創出する独自技術による新規バイオ医薬品の開発」

株式会社エヌピー健康研究所 代表取締役 高山 喜好氏

当社では様々な疾患に関わるGタンパク質共役受容体(GPCR)に対する抗体医薬の開発に特化した事業を行っています。受容体機能を持異的に阻害する抗GPCR抗体を創出するためのプラットフォームとしてMoGRA®ディスカバリーインженを独自に開発し、他社にはない強みがあります。これまでに複数のGPCRに対する新規抗体医薬シーズを見出し、複数の大学と共同し、前臨床開発を進めています。さらなる可能性を求めて、疾患関連GPCRに関する医学研究を進めている研究者との共同開発の機会を求めています。

研究者のシーズ／産学連携ニーズ発表

1 「心不全診療のブレイクスルーを目指した生体情報モニターの開発」

旭川医科大学 小児科学講座 助教 岡 秀治氏

心不全診療に欠かせない生体情報の一つに中心静脈圧測定がありますが、現状は心臓カテーテル検査などの侵襲的な検査でしか測定することができません。一方海外では、超音波センサーを用いて経皮的に静脈圧を測定する技術が報告されています。日本では、ウェアラブルデバイスとして爪の血流情報をモニタリングして動脈圧を測定する研究がなされており、このような技術を応用することで非侵襲的な中心静脈圧測定も可能になると考えます。我々は、心不全診療のブレイクスルーになるモニター開発ならびに社会実装を目標に、工学面で共同研究・御支援を頂ける企業様との連携を希望しております。

2 「低環境負荷な手法を用いたバイオマス資源変換技術の開発」

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 産業技術環境研究本部 工業試験場
新技術創生研究推進室(兼)材料技術部 化学プロセスグループ 研究主任 小川 雄太氏

近年、炭素循環型社会の実現に向け、バイオマス資源を化成品や燃料などに変換するバイオリファイナリー技術が世界的に注目されています。我々のグループではバイオマス資源のグリーンな変換技術の確立を目指して、環境負荷の高い溶媒等を使用しない「鉱物資源を利用したメカノケミカル反応」と「高温高圧水による有価物への変換」を検討しています。これら技術の社会実装に向けて、木質由来の資源を供給可能な企業を探しております。また、未利用資源の有効利用に興味があり、新たな製品開発に向けて基礎から共同研究を実施可能な企業も求めています。

3 「救命活動を支える胸骨圧迫姿勢サポートシステムの開発」

札幌医科大学 医療人育成センター 助教 佐藤 直氏

救命率の向上には、十分な深さの「胸骨圧迫」が重要です。胸骨圧迫の深さと救助者の体重には高い正の相関があり、体重が軽い救助者は胸骨圧迫が浅いことが明らかにされています。アジアは世界でも最も平均体重が軽い大陸であり、十分な深さで胸骨圧迫を行う困難さを示しています。私たちは、床反力や筋活動の分析から「限られた力を増大させる姿勢」について分析を進めています。地域企業と連携した分析研究や、胸骨圧迫の姿勢サポート製品の開発に向けた産学連携を期待しています。

4 「大豆発酵副産物を利用したアルツハイマー病の予防食品素材の開発」

北海道大学 大学院保健科学研究院 教授 惠 淑萍氏、特任講師 何 欣蓉氏

アルツハイマー病(AD)は、緩徐に進行する原因不明の神経変性疾患であり、認知症約60%～70%を占める。日本の認知症患者数は2025年には730万人、2050年には1,016万人に達すると推計され、そのうちADは半数以上を占める。しかし、その有効な予防・治療技術がまだ開発されていない。我々は発酵食品に含まれる機能性成分が神経細胞分化研究モデルPC12細胞のミトコンドリアに対する影響を調べてきた。今後、大豆発酵副産物を利用したアルツハイマー病の予防食品素材の開発を目指し、共同研究・ご支援をいただける企業との連携体制構築を希望しています。

●申込方法

下記URLもしくはQRコードよりお申し込みください

<https://forms.gle/iyayRC6GAELBCgye8>

●定員 70名 ※定員となり次第終了

●申込期限 2024年11月27日(水)

●問い合わせ先

公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター(ノーステック財団)
研究開発支援部 梶原・小原／札幌市北区北21条西12丁目コラボほっかいどう

TEL:011-708-6392 kenkyu@noastec.jp

